一 枚 起 請 文
もろこし我朝にもろもろの智者達の沙汰し申さる
る観念の念にもあらず また学問をして念のこころ
を悟りて申す念佛にもあらず ただ往生極楽のた
めには南無阿弥陀佛と申してうたがいなく往生す
るぞと思い取りて申す外には別の仔細候わず た
だし三心四修と申すことの候うは皆決定して南
無阿弥陀佛にて往生するぞと思ううちにこもり
候うなり この外に奥ふかき事を存ぜば二尊のあ
われみにはずれ本願にもれ候うべし 念佛を信ぜ
ん人はたとい一代の法をよくよく学すとも一文不
知の愚鈍の身になして 尼入道の無智のともがら
に同じうして智者のふるまいをせずしてただ一向に
念佛すべし 為証以両手印
浄土宗の安心起行この一紙に至極せり 源空が
所存この外に全く別義を存ぜず 滅後の邪義を
ふせがんがために所存をしるし畢んぬ
 建暦二年正月二十三日 大師在御判
 年 月 日 浄書

 為

 願主